

平成13年度 病害虫発生予察 特殊報第1号

病害虫名： アルファルファタコゾウムシ
Hypera postica Gyllenhal

対象作物： マメ科植物（主に牧草、レンゲソウ）

1. 発生地： 大田区羽田国際空港用地内

2. 発生経過

- (1) 横浜植物防疫所羽田出張所が、羽田空港国際貨物ターミナル用地等で本年5月末～6月初めにかけて実施した調査においてマメ科雑草（シロツメクサ、アカツメクサ）が点在する芝生地でスィーピングにより捕獲させたゾウムシ成虫5頭が、アルファルファタコゾウムシであったとの情報が当所に連絡された。
- (2) 9月27日に当所と横浜植物防疫所が同じ場所で再調査をしたところ、芝生地と道路縁石との間及び2重になった植木鉢の間に集団で夏眠中の本種成虫多数を捕獲した（写真参照）。東京都では初めての発生確認である。
- (3) 本害虫はヨーロッパ原産で、北アメリカ、ロシア、西及び南アジア、北アフリカに分布し、アルファルファの重要な害虫になっている。我国では1982年に福岡、沖縄両県で発生が確認されその後中国、四国、近畿、中部地方と分布を拡大していた。関東での発生確認は初めてである。

3. 形態

- 成虫： 体長4.0～6.5mm。地色は褐色～黒色。灰色がかった褐色の鱗片に密に覆われ、背面中央はより褐色となるが、体色の個体変異は大きい。
- 卵： だ円形で長径約0.8mm、産下直後は光沢のある明るい黄色である。成熟するにつれて暗黄色～暗緑褐色に変色する。ふ化直前には幼虫の黒い頭部が透けて確認できる。
- 幼虫： ふ化直後は無色透明であるが、しだいに緑色を帯び成熟すると濃緑色になる。成熟すると体長約10mmになり、頭部は黒色、体色は濃緑色で背面中央に縦に一本の白線が見られる。脚は無いが腹部によく発達したこぶ状の突起がある。
- 蛹： 白色、レース状球形（直径約6.4mm）の繭内で前蛹を経て蛹になる。

4. 生態

本種は年間1世代である。5～6月に羽化した新世代成虫は、羽化後しばらくマメ科植物などを摂食した後、樹皮、枯れ草、段ボールなどの下の比較的乾燥した場所に移動して、夏眠する。成虫は11月頃から徐々に覚醒し、マメ科植物（主にレンゲソウ、アルファルファ、ウマゴ

ヤシ等)のある圃場に飛来侵入し、12月～5月上旬まで冬眠することなく活動する。産卵は夜間に行う。雌成虫は茎や葉柄に口吻で卵室を掘り、中に約10個の卵を卵塊状に産み付ける。1頭の成虫は約1,000個を産卵する。

3月上旬にふ化した幼虫は、寄主植物の茎葉や花を摂食し、4齢を経過して蛹になる。

5. 寄主植物

主にアルファルファ、ウマゴヤシ、レンゲソウ、シロツメグサ、カラスノエンドウなどのマメ科牧草及び雑草を食害する。

なお、新成虫が高密度に発生し、レンゲソウ、ウマゴヤシなどの露地のマメ科植物が枯死又は耕起された場合やハウス内の密閉環境では、ソラマメ、ダイズ、インゲンマメ、エンドウ、キュウリ、メロン、ジャガイモ、アザミを加害することもあるが被害は少ないとの情報がある。

6. 防除対策

- (1) 耕種的防除として新成虫の出現前に耕起し灌水する。
- (2) 薬剤防除は幼虫発生期に行う。

アルファルファタコゾウムシに登録のある薬剤

作物名	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	使用法
レンゲソウ (緑肥)	トクチオン細粒剤F	6kg/10a	開花前	1回	散布
マメ科牧草	ディプテレックス乳剤	500倍	-	-	散布
イネ・マメ科牧草	スミチオン乳剤	1,000～ 2,000倍	-	-	散布

注意：養蜂が行われるレンゲ畑では、ミツバチへの影響に配慮して薬剤散布を行う。



上図：夏眠中の成虫が多数見つかった芝生地と道路縁石とのすき間



右図：2重になった植木鉢の底で夏眠中の成虫